自主的かつ持続的な授業改善をめざして

釧路市立釧路小学校　学級数 14　（校長　佐々木　豊　　推進教員　式部　純弥）
釧路市立新陽小学校　学級数 10　（校長　二瓶　明紀　　推進教員　北岡　知樹）
釧路市立武佐小学校　学級数　9　（校長　近藤　伸哉　　推進教員　鳴野　雅之）

Ⅰ　実践テーマの趣旨

釧路市では、平成31年度から市内２校において、令和２年度からは市内３校において「授業改善推進チーム活用事業」の指定を受け、取組を進めてきた。３年目である今年度は、これまでの成果と課題を踏まえ、授業改善推進チームの効果的な活用による学校全体の自主的かつ持続的な授業改善を目指し、取組を進めてきた。

Ⅱ　実践の概要

１　ティーム・ティーチングによる授業改善

(1) 国語科における授業改善

教員が各学年の既習事項や指導事項を把握し、授業を実践するため、授業改善推進チームが各学年から１単元を抽出し、単元の概要や板書計画等を確認することができる単元の指導計画を作成し、参考資料として示した。

(2) 算数科における授業改善

若手教員が特に課題としている「１単位時間のデザイン力」の向上を図るため、教材研究用動画を作成した。また、この教材研究用動画を基に実践した授業動画を撮影し、配置校３校の教員が活用できるよう、配置校限定公開のホームページで共有した。

【単元の指導計画】

２年生「６の段（２時間目）」教材研究用Ver.2

【教材研究用動画】

２年生「６の段（２時間目）」　檜森教諭（武佐小）

【実践動画】

２　各種調査の分析と対策

児童の実態に基づく個に応じた指導を充実させるため、全国学力・学習状況調査、ほっかいどうチャレンジテスト、標準学力調査（ＣＲＴ）及び単元テスト等の各種調査結果を、学年や学級、個人単位で分析し、分析結果を踏まえた授業プランの構想及び授業改善例を示した。

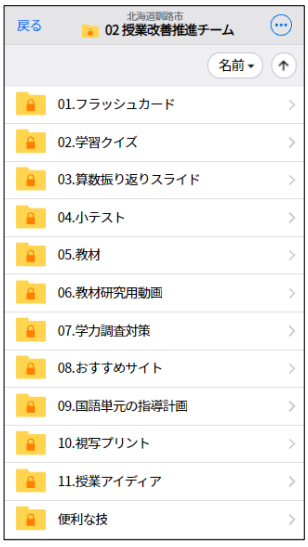
３　ＩＣＴの活用

(1) 授業改善推進チームのホームページ及びロイロノートの資料箱

推進教員が不在のときでも授業進度に合った情報提供を行うため、配置校３校のこれまでの実践例等を、配置校限定公開のホームページで共有した。また、ロイロノートの資料箱を活用し、市全体で授業に係るデータの共有及び活用を図っている。

(2) １人１台端末の活用に向けた取組

１人１台端末を効果的に活用した授業改善を推進するため、「推進チームだより」や実技研修を通して、ＩＣＴを用いた授業改善例を提案したり、朝学習を活用した児童のＩＣＴ等の利活用能力の向上を図る取組を実施したりしている。



【ロイロノートの資料箱】

Ⅲ　成果と課題

１　実践の成果

○　各校の教員と授業改善の取組を進めるとともに、事前・事後の綿密な打合せを行い、ニーズに合わせた授業改善の具体を示したことにより、各校の教員の授業改善を促進し、児童の学力の向上に結び付けることができた。

○　１人１台端末を活用した授業改善例を示すことにより、本時のねらいに合わせて効果的にＩＣＴを活用する場面が多く見られるようになった。

○　推進教員が不在のときでも個々の教員が授業改善を推進できるよう取組を充実させたことにより、授業改善推進チームが示した教材等を個々の教員がアレンジして授業で活用するなど、主体的に授業改善に取り組む教員の姿が見られるようになり、本事業終了後も、学校全体における持続的な授業改善を推進するための体制づくりが整備された。

２　今後の課題

●　今年度で本事業が終了することから、現在クラウド上で共有している教材に関するデータ等を管理及び更新する仕組みを構築し、授業改善に係る取組を継続していく必要がある。